令和7年度　狭山市立笹井小学校　学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

Ａ：よくできている。　（90%以上）
Ｂ：概ねできている。　（85%以上）
Ｃ：あまりできていない。（70%以上）
Ｄ：できていない。　（70%未満）

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から
			評価	説明	評価（文章表記）
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・校長の学校経営方針のもと、「チーム笹井」として、学校、学年、学級が共通理解をもち、組織的に学校運営が進められた。 ・保護者アンケートでは、「学校が楽しい」と回答した児童は88.8%だった。今後は教育課程の見直しや指導法の改善を通じてこの数値が伸びていくように努める。 ・教職員自己評価では、協働体制及び参画意識については95%以上の達成率であり、協力体制が整っている。 ・教職員も児童とともに清掃活動を行い、見届けができている。無言清掃についても徹底が図られてきた。 ・学校運営協議会やPTAとも連携し、点検に協力いただくことで、施設・設備事故を未然に防ぐ事ができた。	・学校行事に参加した際、校長の重点目標をもとに「チーム笹井」で取り組んでいる様子が感じられた。 ・学校訪問の際、児童の笑顔に接することが多く、授業の様子、休み時間の様子からも、児童が安心感を持ち、学校生活を送っていることがうかがえる。 ・職員室内の雰囲気も良く、教職員がお互いを尊重しつつ、協力して児童の指導に取り組んでいる様子がうかがえる。 ・教職員も一緒に清掃活動に取り組むことで、普通教室、特別教室、その他の教室等、どこもきれいに整頓されている。
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。	B		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	・保護者アンケートでは、「授業を理解できている」と回答した児童が91.4%であった。今後は教職員自身の指導力の向上を図り、「学びを実感できる授業」をさらに構築していく必要がある。 ・ほぼ全ての学級で落ち着いた雰囲気で授業が実施されている。 ・埼玉県学力学習状況調査の結果では、4・5・6年生、全ての学年で県平均を下回った。 ・家庭学習時間は（10分×学年）を目安に取り組んでいるが、家庭によりばらつきが見られる。 ・「英語・英語活動が好き・楽しい」と回答した児童は、約8割となり、学習にも楽しみながら取り組んでいる。	・どのクラスでも、先生のていねいな言葉遣い、わかりやすい指示、工夫された授業等、感心させられる場面がたくさんあった。また、児童が積極的に発表し、児童の興味関心を引く授業がなされている。 ・ごく一部に落ち着いて学習に取り組めない児童も見られるが、全体的には、ほぼ落ち着いている。 ・家庭学習は習慣が身についている児童とそうでない児童とで二極化している。 ・児童が元気よく英語の歌を歌ったり、教師の発言に続けて復習していて、英語を楽しんでいる様子がうかがえた。
	7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	B		
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。	B		
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	B		
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。	B	・登校時のあいさつについては、できる班とできない班の二極化が見られる。保護者アンケートでは、87.1%が「あいさつができる」と回答している。 ・児童の場に応じた言葉遣いの意識は、どの学年も80%程度（県学力学習状況調査）である。一部に課題の残る状況も見られる。 ・登下校時刻、授業開始時刻等を含め、時刻を守って生活できる児童が増えてきた。 ・保護者アンケートでは、91.4%が「社会的なルールやマナーを守っている」と回答している。 ・教職員は清掃指導や言葉遣い等、率先垂範の意識のもと、共通行動をとって指導にあたっている。	・学校内では、元気に気持ちの良いあいさつをしてくれる児童が多い。 ・児童と話をする場面では、児童は言葉遣いに気を遣っているように感じられる。 ・児童は、授業時間、休み時間の区別ができ、自発的な行動ができている。 ・教職員の指導のもと、「笹井小のやくそく」を守ることができている。 ・教職員の言葉遣い、態度を見ると規範意識の高さを感じることができる。また、校外でも同様の姿を見かけることが多い。
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。	B		
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。	A		
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A		
健康・体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。	A	・自主活動の朝マラソンや体育授業での活動量の確保、体育朝会や冬季の縄跳び等、授業内外での取り組みを工夫し、年間を通じて児童の体力向上に努めている。 ・保健学習「生き生きタイム」「健康な生活」等への児童の関心が高まりつつある。 ・家庭や関係機関と連携して、医療勧告の治療率を上げていくことが課題である。	・休み時間の子供たちの様子、運動会への取り組み姿勢等を見て、児童は教職員とともに元気よく生き生きと活動している。 ・多くの家庭は健康に気をつけて生活しているが、家庭の協力が得られない児童も一部に見られる。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A		
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・学校便りやスクリレ等を活用し、様々な情報を提供している。 ・学校運営協議会やPTAと連携し、地域の教育資源を活かした学習に取り組むことができている。（PTAバザー、CS体験活動、マーチング活動、地域の伝統芸能等）	・学校運営協議会等で学校からの情報提供が詳しくあり、年々活動が充実してきている。 ・学校は保護者や地域と連携して、笹井地域のよさを継承する活動を多く取り入れている。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A		